

瀬戸田でナッツ農園づくり

徳永製菓、かんきつ類耕作放棄地活用

住民と苗木植樹 循環型農業目指す

アーモンドの苗を農園に植える参加者



動画は中国新聞デジタルで



豆菓子製造販売の徳永製菓（福山市胡町）が、尾道市瀬戸田町で耕作放棄地を活用したナッツ農園づくりに乗り出した。「しまなみナッツファーム」と名付け、豆菓子の製造過程で発生する使用しない材料などを堆肥化する循環型の農業も目指す。同社は2日、地元住民たちと苗木を植樹した。（川崎崇史）

かんきつ類の耕作が放棄されていた畑計約2800平方メートルを借り、アーモンドやピスタチオ、マカダミアナッツなど6種の栽培を予定している。菓子などを製造する際に出る粉末や商品にならない豆などを堆肥にし、農園へ戻す「ナッツサイクル」にも取り組む計画だ。この日は、社員とその家族、住民たち計約40人が、



樹木を伐採するなどして整備した農園に集合。瀬戸内海を見下ろす畑にナッツ6種の苗木計約70本を丁寧に植えていった。同社の創業は1869年。昔ながらの豆菓子に加

え、健康的なおやつとして人気が高まっているナッツ類を使ったスイーツなども製造、販売する。主力商品になってきたナッツ類の大半が輸入品のため、国内で

の栽培を検討。かんきつ類と同じく温暖な気候が適していることから、瀬戸田町がある生口島での農園づくりを決めた。同社の上迫豊社長は「ナ

聴覚障害者宅へ 火災警報器配布

尾道市 24区域の住宅密集地



無償配布する煙感知器と補助装置

尾道市は2022年度、市内24区域の住宅密集地で耳の不自由な人がいる世帯に火災警報器を無償配布する。18年度から4年かけ75歳以上の世帯に配り終えたため対象を広げた。市内で15年から年1、2件あった5棟以上の密集地火災は20年2月以降発生しておらず、市消防局は警報器の普及が一定の成果を上げたとみる。

戦前に建てられた木造建築の割合が高く、過去に5棟以上の火事があった市中心部23区域と因島土生町塩浜地区が対象。耳の不自由

3人制バスケ専用コートオープン 福山市が初整備

福山市は2日、同市東深津町の福山メモリアルパーク芝生広場に市民が自由に使える3人制バスケットポ

ールの専用屋外コートを開いた。市内の公園では初めて。昨夏の東京五輪で新種目に採用され、人気



3人制バスケコートでプレーを楽しむ子どもたち

な人がいる115世帯のうち約70世帯が設置するとみ

警報器は21年度までに、75歳以上の855世帯に配

て22年度一般会計当初予算に300万円を計上した。煙感知器を寝室の天井に設置。感知すると無線で補助装置に伝わり、赤い光の点滅と音声で火災を知らせる。屋外から見やすい玄関などに取り付ける。4月から対象世帯の意向を確認し夏以降の設置を見込む。